

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 学校番号 36

I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の個性や適性に合った目標を定め、最後まで粘り強く挑戦できる生徒 様々な課題を発見し、他者と協力しながら、主体的に課題解決に向けて取り組める生徒 人と繋がる力を養い、多様な価値観を理解して、将来、地域社会でリーダーとして活躍できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 「自律した学習者」となれるよう、個に応じた適切な支援を行いながら、進路目標の実現に向けて意欲的に学習できるよう、3年間を見通したキャリア教育を推進 基礎・基本から深い学びまでを視野に入れて授業を組み立てるとともに、科学的な探究心や知的好奇心を喚起し、地域と協働して地域社会に向けて発信できるような課題解決型の学習を推進 様々な学校行事、部活動、ボランティア活動等、互いに協力しながら一人一人が活躍できる場面を通じて、コミュニケーション能力や社会性を養えるよう、3年間を見通した計画的な活動を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学びに自ら取り組み、自分の可能性に挑戦し、将来の目標を実現しようという意欲のある生徒 学校行事や部活動等の活動に積極的に参加し、充実した学校生活を築いていこうという意欲のある生徒 社会と積極的に関わりをもち、一人一人の個性を尊重しながら相手を思いやり、協働して物事を進めようという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 学校経営	
4 現状の分析	<p>○生徒・保護者ともに、授業改善などによる学習指導の推進を期待していると同時に、ICTの利用や少人数教育など、個に応じた学習支援も一層推進することを望んでいることが分かった。</p> <p>▲学校が積極的に取り組んでいる「探究活動」などの教育活動については、保護者に知られていない部分が多くみられる。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇ICTの利用や少人数教育など、個に応じた学習支援を一層推進する必要がある</p> <p>◇職員の時間外在校等時間数が多い傾向にあるため、働き方改革の推進が必要とされる</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1. 学力の向上と進路希望の実現を目指します。</p> <p>2. 他と協働して主体的に 課題解決に取り組む姿勢を育成します。</p> <p>3. 幅広いもの見方や奉仕の精神、健康でたくましい心身、規律ある生活態度を育成します。</p> <p>4. 働き方改革に努め、社会に開かれた信頼される学校づくりを推進します。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 生徒・保護者アンケート、校内の授業アンケートなどにより、現状を分析し学校経営に生かす</p> <p>(2) 探究活動・課題研究の更なる充実を図る</p> <p>(3) 生徒指導、保健厚生、特別活動が組織的に運用できる体制を整える</p> <p>(4) 勤務時間を意識した働き方を推進し、業務内容の普段の見直しを図る</p>	<p>(1) アンケート結果を分析し、改善策を立て実行する</p> <p>(2) 理数探究部と学年会が連携し、地域と連携した探究活動の充実を図る</p> <p>(3) 学校活動において生徒が主体的に取り組めるよう学校組織として支援する</p> <p>(4) 教職員の勤務時間を正確に把握し、業務の平準化・効率化を図ることで、職員の健康管理に努める</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>(1) Formsを利用したアンケートの利用により多くの生徒・保護者より意見を聞くことができた</p> <p>(2) 理数探究部を中心とした探究活動を実践した</p> <p>(3) 正確な打刻を図り現状を把握するなかで、職員が意識して働き方改革に取り組んだ</p>	<p>①正確な現状把握と分析ができたか</p> <p>②探究活動の充実が図れたか</p> <p>③働き方改革が推進できたか</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果課題	<p>○Forms等の利用により、生徒・保護者・教職員の声をより多くとらえることが可能となった</p> <p>○探究理数部の設置により、探究活動が単年度的な運営から継続的な運営となった</p> <p>○オンライン会議、Formsの利用によりペーパーレス化を進めることで、業務の効率化が図られた</p> <p>▲分掌業務や部活動等のため、職員によっては勤務時間が多くなる場合もあった</p>	
	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>	

も活用を更に進めてほしい。

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）	
4 現状の分析	○相談員の配置により生徒の心のケアを年間で継続して行うことができた。 ▲遅刻者数は減少しているが、特定の生徒が繰り返す傾向にある。	
5 学校の抱える課題	◇生徒指導部では遅刻予備集団を予鈴遅刻者として把握しているが、これが学年団に周知されていない。 ◇相談室の使用に関する決まりごとに曖昧な所があり、相談室を使用したいときに使用できない状況が生じる可能性がある。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・予鈴遅刻者を学年会に情報提供し、不注意遅刻予備者に早期生活改善を促し、不注意による遅刻を一日当たり0.3件以下に抑える。 ・希望者全員をSC及び相談員に接続する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎週の予鈴遅刻者情報提供をし、学年会と連携して生活改善を促す。 (2) 相談室利用ルールを生徒に周知し、状況に応じて運用の徹底を図る。	(1) 遅刻者数が2週間に3人以下となっていることを学年ごとに把握する。 (2) スクールカウンセラー及び相談員との面談により現状を把握する。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・遅刻届とホワイトボードの欠席、遅刻欄を連動することにより、遅刻者の把握に努めた。 ・毎月の教育相談だよりを発行することにより、教育相談室の適切な活用を呼びかけた。	① 遅刻者が減少したか。 ② 相談室の運用は適切になされたか。	A B ○ D Ⓐ B C D
12 成果 課題	○予鈴遅刻者は減少したため学年と連携して対応することはなかった。 ▲予鈴遅刻直前に駆け込む生徒が特定されたため個別に対応したが、改善には至らなかった。精神不安により毎日遅刻する生徒が居たため、統計の正確さに疑問が残った。 ○相談室のルールは周知が図られ、個別の案件に柔軟に対応することができた。教育相談係により、SCと相談員の役割分担も適切に行うことができた。	
13 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A Ⓑ C D	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談的配慮が必要な生徒の遅刻については内数としてカウントし、統計資料に反映しないようにするなど、通常に登校できる生徒の遅刻の推移がわかるようにする。 ・予鈴遅刻直前登校の常習者は夏休み明けから特定される傾向があるため、この時期から生活指導課で個別に面談をするなど特別な指導を実施していく。 ・遅刻届による不在者登校確認は担任に好評であった。次年度も継続して実施していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

(意見・要望・評価等)
・行きづらいので行かないのではなく、行きづらいから誰かに相談しようと思うようになることが重要である。
・授業についていけない生徒に対しては、通級指導なども活用し学ぶ場が確保できるとよい。

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇ 特別活動
4 現状の分析	・ボランティアの項目で評価が低いが、感染症防止のため地域社会での活動が低迷している。また活動の紹介もできない状況下である。 ・部活動の環境面で、狭く排水の便が非常に悪いグラウンドや校舎改築のために活動場所がどんどん無くなっている状況下である。
5 学校の抱える課題	◇ 学校行事や部活動などを通して主体的に課題解決に取り組む姿勢を育成する。 ◇ 多様な価値観を理解させ、コミュニケーション能力や社会性を育成する。

6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが考え積極的に学校行事や主体的な活動に参加できるように支援する。 部活動を通して心身の育成と規律ある生活態度や社会性を養う。 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 生徒会活動では学年やクラス等の集団で協力して取り組ませ活躍の場面を設定する。 (2) 部活動など生徒の主体的な活動を通して学校生活や社会について自ら考える機会をつくる。	(1) 学校アンケート（保護者・生徒） (2) リーダー研修・部活動部長会議 (3) 生徒会意見箱への投書 (4) 部活動加入率	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭…6月及び午前実施のスタイルが出来つつある。 文化祭…コロナ前のスタイルに戻りつつある。スマホ利用に関する取り組みができた。クラス会計処理の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割に応じた協力と主体性のある活動ができたか。 生徒への支援が十分できたか。 社会情勢を踏まえた判断・活動ができたか。 	A B C D A B C D A B C D
12	成果・課題	総合評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部や各委員会が積極的に活動し、各行事をスムーズに実施できた。 ○生徒の主体的な活動を通してコミュニケーション能力や社会性を育むことができた。 ○部活動が充実しつつあり、実績の向上がみられる。 部活動加入率 R4=86.9% ➡ R5=90.3%、文化系増員。 ▲昨年度の反省と同様、6月の体育祭については苦しい部分が残る。夏前の急な猛暑や長引く梅雨空、年度が始まっての膨大な業務と準備期間の短さなど、係としては非常に大変である。 	A B C D	
13	来年度に向けての改善方策案		
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会との意思疎通強化と全教員への情報伝達。 校舎改築に伴う活動場所の工夫。 ボランティア活動の啓発。 体育祭のあり方の継続検討。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

・文武両道の校風を大切にしつつ、自分の意見がもてる生徒を育成してほしい。

I 自己評価

3	評価する領域・分野	◇進路指導	
4	現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○探究活動を生かした総合型、学校推薦型選抜の受験者^(合格者)数の増加 ▲低学年次の進路意識を高揚させる仕掛けが不十分であった。 ▲保護者に対する情報提供の評価が減少傾向にある。 	
5	学校の抱える課題	◇受験意識の高揚が遅いため、学力が受験期に伸び切らない。また、安易な進路決定をしてしまう生徒がいることが課題である。	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒1人1人の希望に細かく対応し教職員全員による指導を推進する。 進学校としての進路実績の向上と安定に努める。 生徒に生き方在り方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置し実施する。 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 進路情報の提供や進路意識の喚起 例：大学説明会（7月12月）、進路ガイダンス、オープンキャンパスへの参加や大学の公開講座の参加推進 (2) 学力向上のための指導 例：放課後補習、柔軟な開設が可能な土曜講座、外部模試の活用、希望者対象の模試の受験案内 (3) 進路情報の職員への共有・生徒への還元 例：模試結果の提供分析、入試説明会の案内、新カリに関わる入試情報の提供	(1) 生徒の感想やワークシート、今未来手帳の活用状況 (2) 各模試の結果分析により、生徒の学力変化 (3) 学校アンケート「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の満足度による評価をおこなう。	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	(1) 進路通信の発行や進路説明会を3年生では複数回	(1) 説明会配信後の感想では、前向	A B C D

<p>実施した。1, 2年生は、学校からだけでなく大学の教授や外部識者の講演会を実施した。</p> <p>(2)模試の受験前後には、学年団と協力して目標設定と振り返りを徹底してできた。また、教科で模試分析して生徒に還元する取り組みをした。</p> <p>(3)外部の研修会の情報共有会、大学説明会参加への呼びかけをした。特に新入試制度についてはアンテナ高く情報を収集し共有するように心がけた。</p>	<p>きな意見が多く得られた。</p> <p>(2)模試の学力の推移<small>(国数英平均点偏差値)</small>は例年と大きな変化はなかった</p> <p>(3)保護者アンケートにおいて、情報提供には昨年度以上に肯定的な意見(79%)が多かった。一方、「適切なアドバイスをしている」では、学年によっては約半数(46%)から不明の回答があった。</p>	<p>A B <input type="radio"/> C D</p> <p>A <input type="radio"/> B C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○保護者説明会の実施を3年生は複数回、1, 2年生は秋にオンラインで行い進路情報の共有を行った。その成果については保護者アンケート「進路情報の提供」でも肯定的な意見が多く得られた。</p> <p>・○学びみらいパス(河合塾)の活用やオープンキャンパス参加の呼びかけを1,2年学年会と協力し行い、自己探求や進路意識の向上に役立てることができた。</p> <p>▲学力向上への仕掛けが課題であるとする。学力向上には進路(受験)意識の向上が必要であるため、低学年から計画的な進路意識向上の取り組みが必要であるとする。また、その取り組みを保護者<small>(特に低学年)</small>にどう伝えるかが課題である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input type="radio"/> B C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>・生徒の進路意識の向上は、学年団との連携が必要である。また、来年度は新課程入試の初年度にあたり教職員の進路情報の更新も必要である。3年時に行う進路実現戦略会議は、過去の進路実績からも効果がある取り組みであるとするので、低学年時から戦略会議といかないまでも、学年単位で進路研修会を実施し、生徒の進路意識の把握と教職員の進路情報のアップデートをしていきたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・自分で目標を持ちにくい時代となったと感じるがゆえ、話しやすい環境をつくることや、他の生徒と情報を共有することで進路目標がもてるようになるとよい。</p>

I 自己評価

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇保健厚生</p>	
<p>4 現状の分析</p>	<p>○安全・衛生面への配慮はされている。</p> <p>▲地震や台風などの対応について生徒の理解が進んでいない。</p>	
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇体調不良による保健室来室者が多い</p>	
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>・生徒一人一人の実態の把握と理解に努め、健康被害及び事故災害の未然防止に万全を期す。</p>	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 健康診断による疾病の早期発見と早期治療</p> <p>(2) 保健室来室時における個別の保健指導</p> <p>(3)健康チェック・消毒による感染防止</p> <p>(3) 毎月の安全点検</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 受診率の状況</p> <p>(2) 来室者の状況</p> <p>(3) 感染症による欠席者の把握</p> <p>(4) 校内の危険箇所・不良個所の修理と改修</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>・健康診断の結果から治療勧告を行った</p> <p>・保健講話の実施</p> <p>・救急法講習会の実施</p> <p>・毎月の安全点検で修繕カ所の対策の実施</p> <p>・命を守る訓練の実施(6月・9月・11月)</p> <p>・校内の美化に努める</p>	<p>10 評価視点</p> <p>①高い受診率が得られたか</p> <p>②十分な情報の提供ができたか</p> <p>③十分な知識と技術の伝達ができたか</p> <p>④危険なことはなかったか</p> <p>⑤落ち着いて素早く非難できたか</p> <p>⑥清掃活動がしっかりと実施されているか</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input type="radio"/> B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="radio"/> A B C D</p> <p>A <input type="radio"/> B C D</p> <p>A <input type="radio"/> B C D</p> <p>A B <input type="radio"/> C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○心電図検査、尿検査の事後措置で要精検者の受診率が100%だった。</p> <p>○3年ぶりに、不測の事態に備えての救急法講習会を、消防署の方に来てもらい実施することができた。</p> <p>・▲歯科検診、視力検査の要受診者の受診率が低い。</p> <p>▲特別教室の掃除が監督不在になることが多く、掃除が行き届かない点が課題である。</p> <p>▲先生方の清掃に対する取り組み方に温度差がある。</p> <p>○命を守る訓練は、昨年度より実際を想定した訓練が実施できた。</p>	

▲地震発生を想定し、落ち着いた行動を生徒にとらせることはできた。来年度は生徒も教員も自ら考えて安全を守るための行動ができるような訓練を実施していきたい。
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・エピペンを持っている生徒が2名いるため、教職員に向けてエピペンを使ったシミュレーション研修を行う ・健康診断の結果要受診者となった生徒に対して、担任の先生を通じて呼びかけをする。 ・清掃活動に対する先生方の意識改革を職員会議等で度々願います。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安心安全のための取組を継続してほしい。
--

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇保護者、地域住民などとの連携、情報提供、教育環境整備	
4 現状の分析	○図書館利用及び関連行事については活発に行われている。PTA活動についても保護者の支援を得て実施できている。情報機器の管理、利用・推進環境の整備も進んでいる。 ▲授業での図書館利用の推進、ホームページの早期更新、コロナ禍を経たPTA活動の継続、発展について課題を抱えている。	
5 学校の抱える課題	◇古い図書資料の整理。 ◇PTA主催行事の改廃。 ◇授業でのICT活用。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への図書貸し出し冊数の増加。 ・実効性、継続性あるPTA活動の検討。 ・教科ごとのICT活用方法の研究。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館便りによる広報活動。 (2) PTA活動の活発化。 (3) ICT活用授業講座。	(1) 貸出冊数(目標7,000冊) (2) 自粛していた行事の継承発展。 (3) 教員向けアンケートの結果。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月図書館便りを発行している。 ・PTA活動を連携をとって順調に進めている。 ・課題の提出や提示のオンライン利用を進めている。 	①貸出冊数5,618冊。(12月末で8割) ②PTA活動が活発化している。 ③授業でのICT利用。	A B C D A B C D A B C D
12 成果 課題	○図書館課では図書館運営、委員会活動を計画通りにすすめられた。 ○渉外課ではPTA活動が徐々にコロナ以前の状態に復しつつある。 ○情報課では、タブレット、書画カメラを利用する教員が増えている。 ・▲統合された分掌としてのあり方を考えていきたい。	
13 来年度に向けての改善方策案 図書館課では古い書籍の除籍と登録を進めていく。 渉外課では、保護者との連携のもとにPTA活動の活発化を進めていく。 情報課では、各教科で研究授業を行いつつ、ICT機器の利用について研究を進めていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の利用により、予定や課題に優先順位をつけて取り組めるようになっている生徒もいると聞く。意図をもってタブレットを使うようになってほしい。
--

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇普通科「総合的な探究の時間」・理数科
4 現状の分析	○理数科においては従来の課題研究の指導経験があり、校外研修や外部講師による講義などを行っている。

	▲普通科の総合的な探究の時間において、「進路研究」や「地域課題研究」を行ってきたが、学年主任を中心とした取り組みで、全体をまとめる組織がなかった。	
5 学校の抱える課題	◇ 総合的な探究の時間における「地域課題研究」の担当が学年主任中心であったため、学年ごとの取り組みであった。 ◇ 理数科では課題研究や校外研修など様々な取り組みを行っているが、中学生の理数科志望者が少ない。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究を通して課題を解決する中で、自己実現を図る力を育成し、生徒の進路目標実現につなげていく。 ・主体的、対話的な学習に重点を置いて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成に努める。 ・理数科の特性を生かして生徒の学力を高め、進路実現につなげる。新課程の「理数探究基礎」「理数探究」の指導を重点に、実験や体験学習を重視した教育実践と、主体的・対話的な学習態度を育成する。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 学年間の繋がりを大切にして、継続的な探究活動を推進する。</p> <p>(2) 一年次の校外研修や二年次の修学旅行研修の事前・事後研修を通して、地域理解を深める。</p> <p>(3) 「理数探究基礎」で科学研究の基礎力をつけ「理数探究」につながる指導をする。</p> <p>(4) 生徒に理数科の活動を進路に活かす具体例を示して可能性・有利性を理解させ、目標を持たせる。</p>	<p>(1) 生徒の取組状況や自己評価 目的意識・探究的取り組み・協調性・表現力</p> <p>(2) 「地域課題研究」や「理数科課題研究」の取組を活かした進路選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚、進路分野の明確化 ・総合型選抜や学校推薦型選抜への出願と合格の状況。目的意識、進路意識の変化。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・総合探究では学年主任や美濃加茂市などと連携して進めた。 ・理数探究基礎から理数探究（課題研究）への指導計画を協議した。 ・課題研究を活かした進路指導や外部での発表を実施した。 	<p>①総合探究への取り組み</p> <p>②総合探究の成果・発表内容</p> <p>③探究活動・課題研究を活かした進路実現</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果 課題	<p>○学年主任が中心であった総合探究から探究課が取りまとめるようになり、学年主任の負担が減った。▲その一方で、探究課が1・2年を同時期に計画、打ち合わせが必要になったため大変であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○美濃加茂市などと連携して実施することができた。▲活動が美濃加茂市の都合に合わせたものになった。 ○理数科課題研究に向けて、理数探究基礎から実習やデータの処理などの基礎力をつける指導ができた。 ○課題研究の成果を外部で発表する機会に積極的に参加した。▲外部での口頭発表の時期に、まだ研究がまとまっていないため発表できるものが限られる。 ○課題研究で進路実現ができた生徒もおり、生徒に応じた指導ができた。 	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
13 来年度に向けての改善方策案		
<p>(1) 総合探究を円滑に進めるために、探究課に加えて学年主任、学年担当を配置して計画を進める。</p> <p>(2) 総合探究の時間を、生徒の進路を考える時間と、地域の課題を考えて解決策を考える活動を、関係者で協議しながら進める。</p> <p>(3) 進路実現のために課題研究を活かすことは継続していく。学力が不足していると、出願条件や学力面での合格基準に届かないことがあるため、学力+課題研究で推薦入試や総合型入試に向かうように指導する。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校時代から地域との繋がりを持ってほしい。現在、美濃加茂市役所と連携した取組を継続することで、地域貢献の意識が芽生える。 ・探究活動が地域の方々の意見を聞くよい機会となっている。これからは、社会貢献や地域貢献ができる人材が求められている。高校生が実勢に現場でどのように生かしていくか、今後が大切である。そのためには、地域の協力が必要であり、この活動が次につながる機会になればよいと思う。
--